

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社 安寿		
事業所名	グループホーム 花咲小町 (ユニット名 小町)		
所在地	〒501-2573 岐阜県岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	平成21年11月13日	評価結果市町村受理日	平成22年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102848&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホーム花咲小町の基本理念である「自然の恵みを受けてありのままに」の精神の意味とする、新鮮な空気・太陽の光・暖かさ・清潔さ・静かさを適度に保ち、食事を適切に管理することにより、人間の持つ生命力を引き出し、心身の活性化につなげることを遵守すること。そして、利用者のありのままを受け入れ、最期まで生き抜くことを援助し、安らかな死を迎えられるように職員一同誠意を持ってケアに努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自然に囲まれ、地域に密着した立地条件を活かし、ホームは建てられている。どの目線からも外の景観が楽しめるよう設計された大きな窓は、開放感と利用者の立場に立った配慮が表れている。運営している管理者は地元住民で、ホームは自宅から目と鼻の先にあるため、絶えず細やかな管理を行っている。また、管理者が実務経験の豊富な看護師であった経緯から、開設以来、地域の医療機関の協力の下、終末期ケアまで支援する姿勢を一貫し、利用者、家族からの信頼が厚い。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(小町)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然環境豊かな地域性を重視した理念であり、その理念の持つ意味を職員皆で理解し、利用者のありのままを受け止め、思いを引き出せるようなケアを心がけている。	自然の力を利用し、その人本来の機能を発揮できるように地域での生活過程を整えるケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出時に地域住民の皆さんと笑顔で挨拶をしたり立ち話など、顔馴染みになっている。また、地域の行事や祭りなどに誘っていただいている。今年の納涼祭りには、近所の方々に来ていただいた。	管理者が、民生委員として地域に関わり、周囲の後押しがある環境の下、日頃の交流はもとより、地元行事への参加も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個人情報を守りながら、ホームではどのような利用者が暮しているのか日常の会話から様子を伝え、地域の人たちに認知症の理解を深めてもらえるように努めている。また、老人クラブの総会で、認知症を含めたホームでの様子等を話した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で取り上げられた指摘事項・意見等を、スタッフ全員で共有し、地域の理解や協力を得、さらにより良いホーム作りのために報告意見等の場になっている。	運営推進会議の必要性を理解し、取り組んではいるが、今年度は2回の開催となっている。	地域に根付いたホームであり、多方面からの意見交流の場として2ヶ月ごとの定期的な開催が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないこと、不安に思うことなど常に聞き指導をしていただくようにしている。	市の担当職員との関わりも深く、介護保険制度についての問い合わせや代行申請など窓口に出向くことも多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵は常に開いており、利用者が自由に出入りできる。職員全員が身体拘束による弊害を心得ており、利用者が不穏な状態にあるときは、拘束せず、側で見守るようにしている。	身体拘束をしないケアの実践をしている。施錠しない玄関のあり方や、ベッドから転落の危険がある場合の絶えず見守りができる所での寄り添うケアを工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護推進員である管理者の指導の下、高齢者虐待防止に取り組んでいる。ホームでは特に言葉の暴力をなくし利用者やその家族との信頼関係を築いていけるケアをすように努めている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進員である管理者が機会がある毎に職員に説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書などで事業所の考え方等を説明し納得していただいている。また、事業所で可能なこと不可能なこと、生活をしていく中で考えられるリスク等についてもきちんと説明し、納得と安心を得ていただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族様の来所時に職員のほうから、気になることや改善してほしいと思うことは無いかと声掛けをしたりしている。ご意見箱が設置してあり意見や要望にすばやく対応が出来るように努めている。	ホーム内は、話しかけやすい雰囲気作りがある。管理者はホームに常在しており、利用者や家族の要望を傾聴し、意向を会議にもかけている。ただ、家族会の存在がなく、全体の意見や要望の吸い上げが難しい。	ホーム全体で家族の意見を調整していくためにも、家族会の設立を運営推進会議等で検討されたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行われるカンファレンスで意見を話し合う機会がある。代表者や管理者は職員の提案に柔軟な対応をしている。	毎月、定例カンファレンスを開催し、職員全員が出席して行われている。管理者と職員は、自由に意見を出し合い、業務の改善等運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は毎日事業所に来ており、利用者や職員の状況を良く把握している。職員一人一人の努力を認め、さらに意欲的に働けるように十分配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画や職員のレベルに合わせて、勉強が出来るように配慮されている。研修にあわせて勤務を調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や地域のケア会議に出席して、他施設の方との交流を持ち質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前の生活状況及び生活歴を把握するように努め、本人の気持ちを表出できるように出来るだけそばにるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日々の生活の中でご家族が抱えておられた不安や心配等を理解できるように努め、この生活での要望に耳を傾け、少しでも家族に近づける介護をするように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人やご家族の思いや状況を聞き、当事業所で援助できるかどうか見極め、今一番必要としているサービスは何かを相談しながら、他のサービスの情報提供も含め対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の不安や喜びを共感し、共に生活をしているという認識のもと、楽しく穏やかに暮らしていけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ここでの生活や本人の思いをご家族に話すことにより、本人の状況を共有でき、職員とご家族が一緒に支えて行ける関係作りが出来るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの馴染みの友達が来やすい環境を提供できるように整えたり、電話や手紙の継続を援助している。	地元の利用者が多く、親しい人が自転車で面会に来たり、季節の野菜の差し入れや花作りの手伝いなど気軽に訪問している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や能力を把握することにより、利用者同士で支えあったり、能力を発揮できるような場面を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	初盆や1回忌にははがき等で故人をしのび、ご家族様とスーパー等でお会いしたときなどは気楽に声掛けできるような関係作りが構築されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がその人らしく生活していける支援をするために、本人の思いを理解しようとする関係性をもってかかわることが大切であり、本人の視点に立って意見を出し合っていくように努めている。	利用者に興味を持ち、相手を知ろうとすることで求められている支援が見えてくるという寄り添うケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドシートを作成することにより、本人が今どの年代のことを話しているのが理解でき、より一層本人の今までの生活をも共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活歴を踏まえ、1日の暮らしの流れに沿って、本人の出来る力・わかる力・見る力等を日々の暮らしの中から発見し養っていくと心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスを定期的に行い、本人の思いや家族の思いを反映した計画作成に取り組んでいる。	毎月のケースカンファレンスで、部屋担当、ユニット職員、計画作成者、それぞれが意見を出し合い、家族の意向等を反映した個別の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、利用者の身体状況や健康管理及び日々の暮らしぶりを記録し、職員間の情報共有とし、またケアの見直し、評価に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の状況により、気分転換に外出をしたり家族の負担を軽減するために病院受診に付き添ったり、臨機応変に対応している。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮せるように、地域の自治会に出席し理解を深めていただけるように努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には今までの主治医を継続し、通院援助を行ない医師との信頼関係を深めながら、健康管理に努めている。	かかりつけ医の支援を基本とし、希望者は協力医の往診をはじめ、精神科医とも連携し、認知症対応型施設として適切な診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化のきずきができるように、日々看護師より情報提供があるため、異常の早期発見につながりやすい。また、24時間看護師との連絡体制が整っているため安心して介護をすることが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の医師及び関係者、主治医、家族、事業所の看護師との話し合いにより、早期に退院に向けての環境を整えることが出来る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応指針」「看取りケア指針」を作成し事業所が対応しえる最大のケアについて説明と同意を得るように行っている。	入居前に、看取りケアができることを説明している。管理者が看護師であり、協力医の後押しもあって、開設以来、9例の看取りがホームで行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の仕方や緊急時の観察の仕方を勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所独自で避難経路の確認や消火器の取り扱いなどの訓練を行っている。	災害に関しては、管理者はじめ職員の意識が高く、自治会の協力に基づいた災害対策も行っている。救済時のために、利用者の現状を自治会へ報告している。	職員の少ない夜間を想定した火災訓練も検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に失敗をしないような設定をするように気をつけ、自信を持てるような声掛けをしている。	利用者それぞれの出来る能力を見極め、自信をなくさない支援を心がけ、誇りやプライバシーの保持に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の能力にあわせ、常に自己決定が出来るよう、簡単に答えられる問いかけをするように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の生活パターンは決めてあるが、その中でも一人ひとりの生活リズムに合わせて、柔軟に対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で決められる人にはコーディネートのアドバイスをするときもあるが、自己決定の困難な方には、「どちらにする」と簡単な問いかけをして選べるように心がけている。納涼祭り際には浴衣を着ていただいた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや嚥下状況を把握し、その人にあつた食事を適切に提供している。メニューを決める際には、利用者の希望を聞いたり、当日でも利用者の希望があればメニュー変更をするなど、柔軟に対応をしている。	メニュー会議を週に2回行い、その都度、3日分の買い付けを行っている。チラシなどを見て、食べたい物があれば、メニューの変更を行い、希望をかなえるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量を記録し、栄養状態を把握している。また一人ひとりの嚥下状態により食形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの援助を行っている。また、家族の希望や口腔及び歯牙の状態に合わせて、歯科衛生士により定期的にメンテナンスを行っている		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握することにより、さりげなくトイレ誘導をして失敗をさせないように努力している。また一人ひとりに合った下着やパット類を選んでいる。	立位が保てる利用者は、日中トイレ誘導による排泄支援をしている。夜間は、オムツ対応やポータブルトイレの介助も状態により考慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を毎日記録し、便の性状に合わせ食事や水分量を適宜調節をしたり、運動を勧めたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴時間や入浴日が決めてあるが、その日の体調や本人の希望により柔軟に対応をしている。	週3回ずつ、ユニットの中で半々に分かれ入浴を行い、ゆったりとした時間を当てている。また、状態の悪い利用者には、看護師である管理者が直接入浴に立ち会っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動を取り入れ夜間の安眠を促すようにしているが、その人の睡眠パターンがあり、無理に寝かせようとするのではなく、柔軟に対応し安眠につなげるよう工夫している。また、こまめに寝具を干したりして安眠できる環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにその人の薬の内容と効能が入っており把握できるようにしてある。また、確実に服薬するように必ず確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことを把握し、出来る力を発揮する環境を整え、自信を持っていただけるように支援していくように心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は社会性を保つためや気分転換をするためにも毎日のように出かけている。喫茶店にも出かけモーニングコーヒーを楽しみにしている。	周辺は自然に恵まれた環境のため、散歩を日課としている。歩行が困難で散歩が無理な利用者は、敷地内のテラスでお茶を楽しむなど、状態に合わせた援助の取り組みがある。	

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の理解を得て、ご自分で管理できる程度のお金を持っており、孫、ひ孫が面会に来た際にお小遣いを上げたり、職員に買ってきてほしいと頼まれたりする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話はいつでもかけられるように支援している。季節ごとのはがきや手紙は、職員と一緒に工夫を凝らしながら息子、娘、兄弟等に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境を整えることにより、恒常性機能の向上につなげるのは事業所の基本理念であるように、常に環境への配慮に気をつけている。	共用空間は、採光も十分で、暖かい雰囲気がある。利用者が集まる食堂や居間の窓は、利用者の目線に合わせてあり、広く開放的で、室内から四季を楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりに合った椅子や場所を提供し居心地の良い環境を作るように努力している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自分が居心地の良い場所と思えるように、自由に持ってきて飾っていただいている。特に家族写真は、いつまでも家族の一員であるという認識を持っていただけるように大切にしている。	居室は、家族が利用者の落ち着ける部屋作りを行い、それぞれ馴染みの品や大切にしている物が置かれている。そのため、利用者一人ひとりの今までの生活がホームの中でも実現されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物構造が見守りができやすい配置になっており、出来るだけ安全に且つ自立して行えるように皆で考え支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社 安寿		
事業所名	グループホーム 花咲小町 (ユニット名 式部)		
所在地	〒501-2573 岐阜県岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	平成21年11月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(式部)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然環境豊かな地域性を重視した理念であり、その理念の持つ意味を職員皆で理解し、利用者のありのままを受け止め、思いを引き出せるようなケアを心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出時に地域住民の皆さんと笑顔で挨拶をしたり立ち話など、顔馴染みになっている。また、経営者が地元なので、皆が温かく迎えてくれて、花の苗を下さったりする。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個人情報を守りながら、ホームではどのような利用者が暮しているのか日常の会話から様子を伝え、地域の人たちに認知症の理解を深めてもらえるように努めている。また、老人クラブの総会で、認知症を含めたホームでの様子等を話した		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で取り上げられた指摘事項・意見等を、スタッフ全員で共有し、地域の理解や協力を得、さらにより良いホーム作りのために報告意見等の場になっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないこと、不安に思うことなど常に聞き指導をしていただくようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵は常に開いており、利用者が自由に出入りできる。職員全員が身体拘束による弊害を心得ており、利用者が不穏な状態にあるときは、拘束せず、側で見守るようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	権利擁護推進員である管理者の指導の下、高齢者虐待防止に取り組んでいる。ホームでは特に言葉の暴力をなくし利用者やその家族との信頼関係を築いていけるケアをすように努めている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用する方が見えるので、その経過を管理者とともに勉強をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書などで事業所の考え方等を説明し納得していただいている。また、事業所で可能なこと不可能なこと、生活をしていく中で考えられるリスク等についてもきちんと説明し、納得と安心を得ていただけるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族様の来所時に職員のほうから、気になることや改善してほしいと思うことは無いかと声掛けをしたりしている。ご意見箱が設置してあり意見や要望にすばやく対応が出来るように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者及び管理者はいつも出勤しており、職員の意見にすぐに対応してくれる柔軟な姿勢があるため、働く意欲や介護の質の向上につながっていくと思う。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は毎日事業所に来ており、利用者や職員の状況を良く把握している。職員一人一人の努力を認め、さらに意欲的に働けるように充分配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画や職員のレベルに合わせて、勉強が出来るように配慮されている。研修にあわせて勤務を調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ母体の他事業所のケアや行事に参加し、アイデアなど参考になることがあり、お互いに競い合いながら、より良いケアにつなげていけるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くには、まず利用者の思いや不安を受け止め、出来るだけそばに寄り添うことで安心して受け入れていただけるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自分がこの利用者の家族だったらと置き換えてみて、利用するまでの家族の思いを受け止め、家族の思いに沿ったケアが提供できるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族にとって今何が一番必要なことかを見極めて、安心納得した上で可能な限り援助していくように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者の立場に立ち、自分だったらどんな風に介護してほしいか、どんな風に言葉をかけてほしいかを考え、お互いに支えあって生活が出来るような関係を作り上げたいと思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が「ここを選んでよかった」と思っただけのように、以前に不安に思っておられたことが、ここで少しでも解消された些細なこと等を話すことで、安心と自信を持ってかわっていただけるような関係を築けるように努力している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て、今までの美容院に行ったり、毎日のように通っていた喫茶店に行き、仲間との関係を継続できるように配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や能力を把握することにより、利用者同士で支えあったり、能力を発揮できるような場面を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	初盆や1回忌にははがき等で故人をしのび、ご家族様とスーパー等でお会いしたときなどは気楽に声掛けできるような関係作りが構築されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に生活をしていると、重度の認知症の方でも表情や行動で何を訴えているのかわかるようになり、その人にとって心地よいことは何かを考え、常に安心安楽を考えたケアに取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドシートが作成してあるため、昔のことを回想していただける話の切り口になり、そこからもっと深めた内容に持っていけるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者を総合的に見る中で、特に得意としていることを見つけ出し、さらに伸ばしていけるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスを定期的に行い、受け持ち制を取り入れ本人の思いや家族の思いを反映した計画作成に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、利用者の身体状況や健康管理及び日々の暮らしぶり等を記録し、職員間の情報共有とし、またケアの見直し、評価に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の状況により、気分転換に外出をしたり家族の負担を軽減するために病院受診に付き添ったり、臨機応変に対応している。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	経営者が地元というメリットがあり、地域の人たちは利用者たちの立場を自分と重ね合わせて考えている方たちもあり、身近な存在として温かく見守ってくださっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関等の医師による継続的な健康管理を受け、状況により本人や家族が希望する医療に受診できるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化のきずきができるように、日々看護師より情報提供があるため、異常の早期発見につながりやすい。また、24時間看護師との連絡体制が整っているため安心して介護をすることが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院する際には必ず看護師が付き添い、詳細に情報提供をしてくれている。また入院中にも家族との連絡を密にして状態把握に努め、早期退院に向けて、関係者との話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を重視し、事業所として可能な限り主治医や家族の協力の下、状況変化にそのつど確認しながら、最後まで生き抜く力を援助できるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルにより勉強をする機会を設けている。看護師との連絡体制も整っているため、あわてずに適切な指示を受けることができ、対応が出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所独自で避難経路の確認や消火器の取り扱いなどの訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どんなチグハグと思える行動でも、本人にとってはとても意味があるものだとの認識の下、常に何でだろうと興味を持ち、本人の気持ちを引き出すように努め、共感した上で対応するように努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉では十分に表現できない利用者の場合でも、顔の表情や、全身での反応を注意深くキャッチして、本人の意図としていることが理解できるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の生活パターンは決めてあるが、一人ひとりの生活ペースを乱すことなく、問いかけながら生活していただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の前で自分の髪型や服装を整えることもあるが、中には鏡に映った自分を「私ではない」と拒否されることもある為、一人ひとりに合った方法で、おしゃれが楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや嚥下状況を把握し、その人にあつた食事を適切に提供している。職員も介助しながら一緒に頂き、和やかな食事時間を提供できるよう努力している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段から利用者の食べ物の好みや習慣、食事の様子を把握し、体調や体重の増減を観察しながら、栄養状態の安定化に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの歯牙の状態や有する力に合わせて、口腔ケア用品を変えて、清潔に保てるように援助している。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の利用者に適した排泄方法を考え、精神的負担を軽減するように心がけ、便意・尿意の訴えを見逃さないようにすることでトイレ誘導が持続できるように努力している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤等に頼らず自然排便を促すための工夫として、食物繊維の多い食品やヨーグルト等を摂取し、適度な運動も取り入れて、継続的に予防、対応をするように努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	着脱には十分に配慮し羞恥心や恐怖心が無いように気を配り、入浴時も声掛けを行いながら動作協力を行っていただき、負担無く気持ちよく入れるように配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な休息や睡眠が取れるように居室の環境整備を心がけ、本人の活動状況やストレス状況も勘案し安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れや誤薬を防ぐためにも前もって渡しておくことをせず、確実に服薬確認をするように心がけている。薬が変わったときは、状態変化に留意し、看護師に情報提供をし、早期対応が出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分が得意とすることや自信を持って出来ることを状況がだんだん変わっていても、その自信を失うことの無いように支援していけるように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は社会性を保つためや気分転換をするためにも毎日のように出かけている。喫茶店にも出かけモーニングコーヒーを楽しみにしている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の理解を得て、自分で管理できる程度のお金を持っており、孫、ひ孫が面会に来た際にお小遣いを上げたり、職員に買ってほしいと頼まれたりする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれたらホストに入れてあげたり、住所確認をしたりする援助をおこなっている。寂しそうにしている時などは、家に電話をかけてあげて家族と話をさせていただき気配りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気の合った者同士が仲良く楽しそうに話していたり、共同して作品作りをするなど、毎日が楽しみを持って居心地良く暮せるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中でも、一人ひとりがお気に入りの場所があり、いつも所定の場所で過ごされることが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自分が一番安心して過ごせる場所にするためにも、利用者が気に入ったものを家族と話し合いながら、持ってきていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自立して行えるように補助具はその時々状態に合わせて、変えていくように援助している。自分で出来ることを持続していくために励ましながら、援助していくように努力している。		